

【再評価】

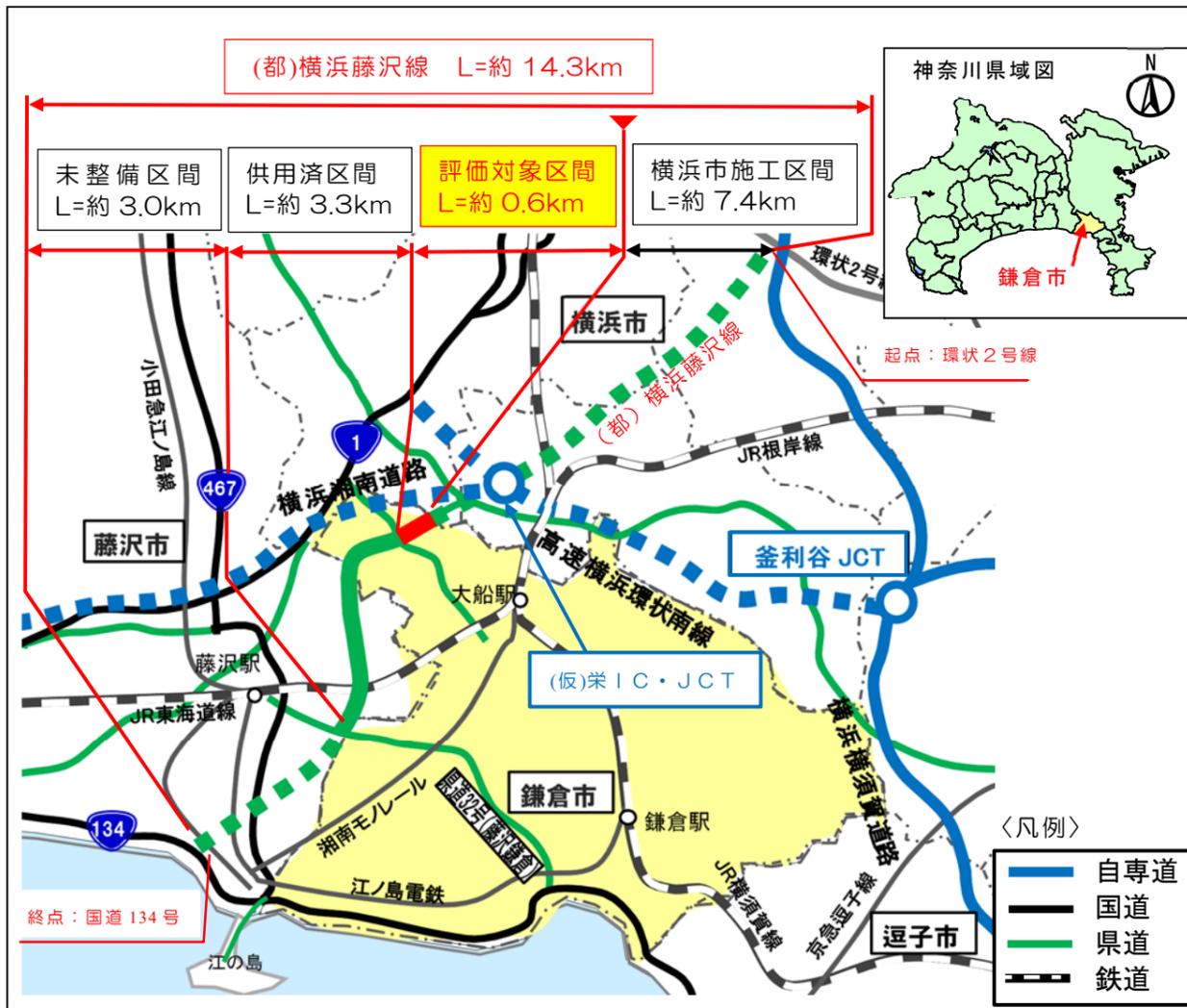
No. 1 都市計画道路 横浜藤沢線 街路整備事業

◆ 事業概要

1. 概要

1) 全体の概要

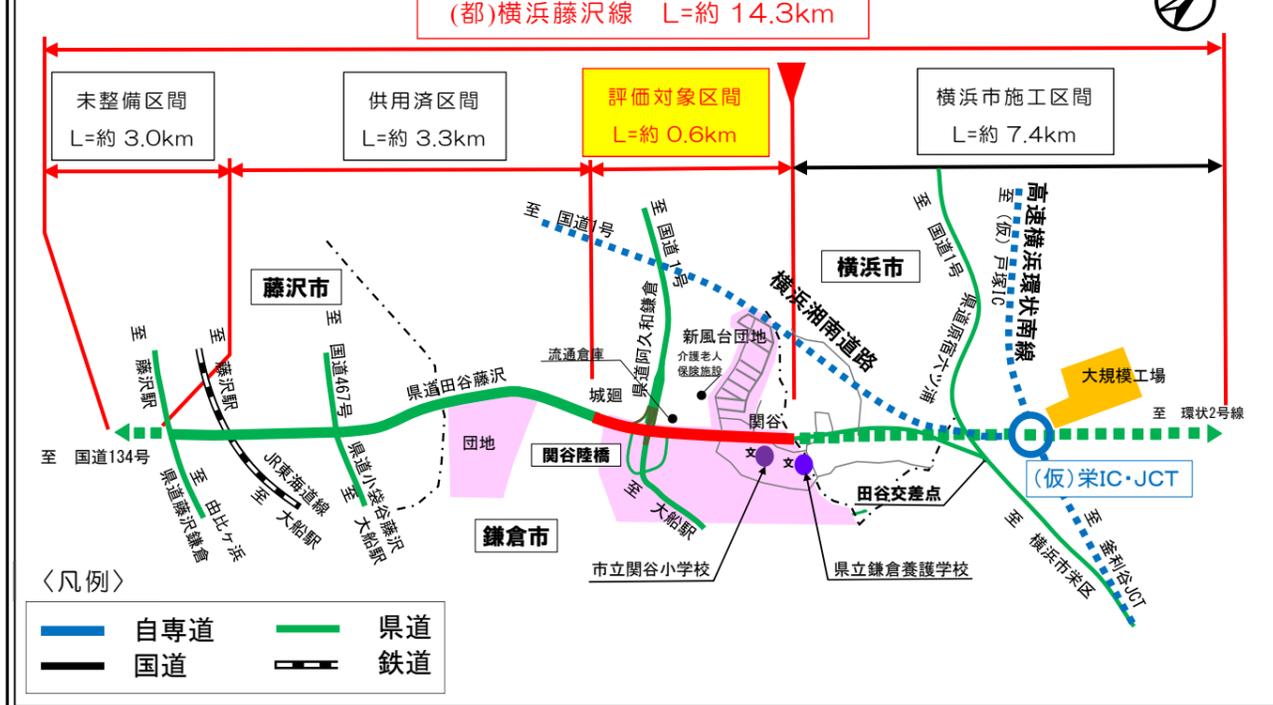
- ア) 本路線は、横浜市域と湘南地域を結び、横浜湘南道路及び高速横浜環状南線のインターチェンジ接続道路として整備が進められている。
- イ) 本路線は、横浜湘南道路及び高速横浜環状南線（仮）栄IC・JCTへのアクセスを強化するとともに、横浜市内と湘南地域において慢性的に生じている交通混雑の緩和に寄与する路線である。
- ウ) 本路線は、「第1次緊急輸送道路」及び「緊急交通路指定想定路」に指定されている国道1号の代替機能を有している。



2) 評価対象事業の概要

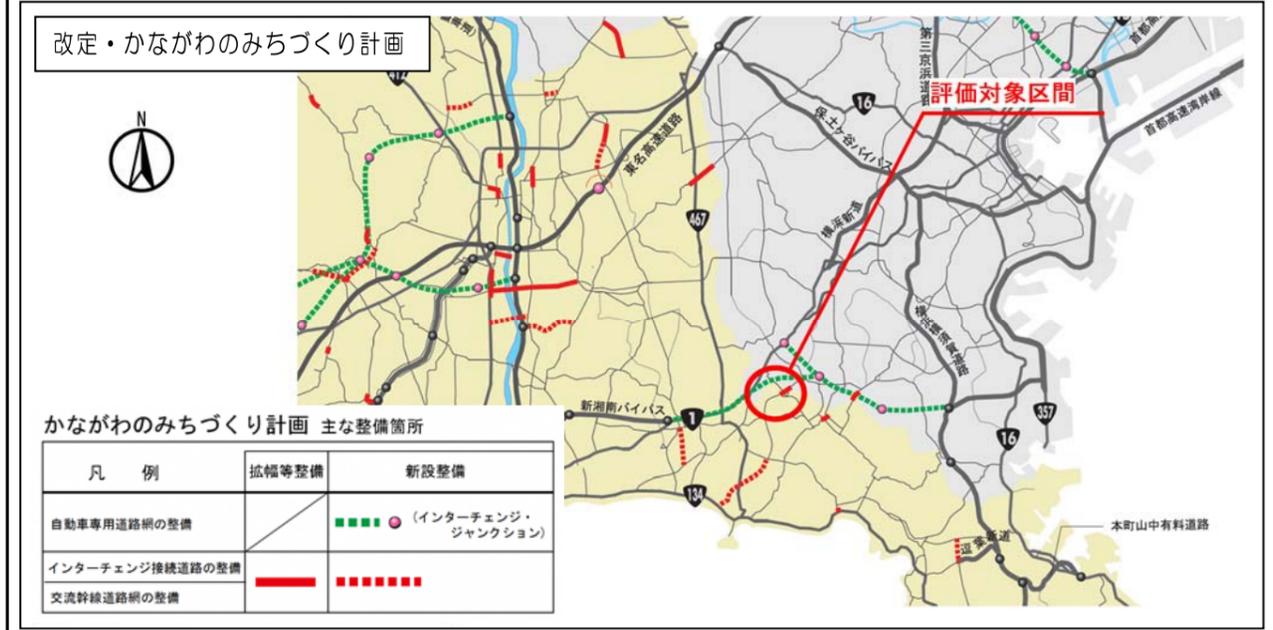
- ア) 評価対象区間は、鎌倉市関谷（横浜市境）から鎌倉市城廻に至る延長約0.6kmであり、片側歩道で2車線の道路を両側歩道で6車線の道路へ拡幅する事業である。
- イ) 本区間は、隣接する横浜市施工区間とともに、国で施工中の横浜湘南道路及び高速横浜環状南線（仮）栄IC・JCTの開通に合わせて供用できるよう整備を進めている。
- ウ) 本区間は、平成21年度に事業着手している。

■ 事業地周辺図



3) 評価対象事業の位置づけ

- ア) 県の計画：
 - a) かながわランドデザイン実施計画
 - ・「交流幹線道路網の整備」として位置づけ
 - b) かながわ交通計画（かながわ都市マスタープランの部門別計画）
 - ・「多車線機能を有する一般幹線道路網構想」として位置づけ
 - c) 改定・かながわのみちづくり計画
 - ・「インターチェンジ接続道路の整備」として位置づけ
- イ) 市の計画：
 - a) 鎌倉市都市マスタープラン
 - ・「外周における骨格的な幹線道路整備」として位置づけ



【再評価】

No. 1 都市計画道路 横浜藤沢線 街路整備事業

2. 事業の経緯や必要性

1) 経緯

- 昭和44年度：都市計画決定
- 昭和46年度：都市計画変更（名称変更）
- 平成20年度：事業認可取得
- 平成21年度：用地取得開始
- 平成27年度：事業認可変更（事業施行期間延長）

2) 必要性

- ア) 湘南地域の一層の発展と活性化を図るため、横浜市域との連携を強化する必要がある。
- イ) 横浜湘南道路及び高速横浜環状南線（仮）栄IC・JCTへのアクセス道路として整備が必要である。

3. 事業の目的

- 1) 横浜市域と湘南地域の連携強化
- 2) 横浜湘南道路及び高速横浜環状南線（仮）栄IC・JCTへのアクセス強化

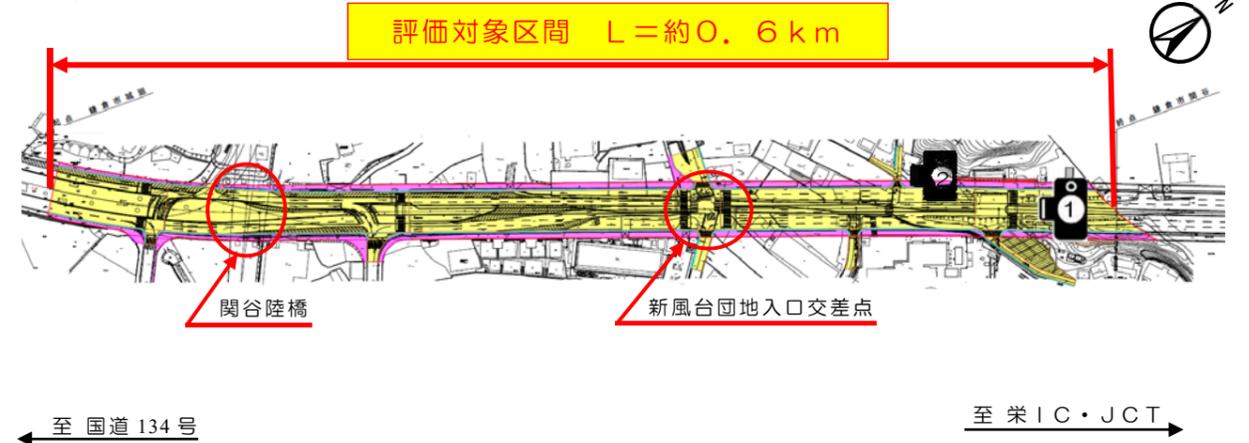
4. 事業の内容

- 1) 起終点：鎌倉市関谷 ～ 鎌倉市城廻
- 2) 事業延長：約0.6km
- 3) 幅員：32.0m
- 4) 交通量：計画交通量 50,900 台/日（H42推計）
現況交通量 15,710 台/日*（H27実測値）
※12時間交通量に昼夜率（H27全国道路・街路交通情勢調査 1.34）を掛けて算出
- 5) 道路規格：第4種第1級
- 6) 設計速度：60km/h
- 7) 車線数：6車線
- 8) 歩道形態：両側歩道
- 9) 主な工種：道路改良工

5. 事業実施にあたって配慮した項目

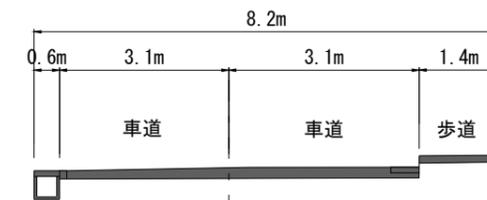
- ・本事業は、現道拡幅であり、車両を通しながらの工事となるため、施工手順や現道の切回しについて、工区が隣接する横浜市と連携を図りながら進めている。
- ・片側歩道から広幅員の両側歩道に整備することで、児童や高齢者が安全に歩けるよう配慮した。

■平面図

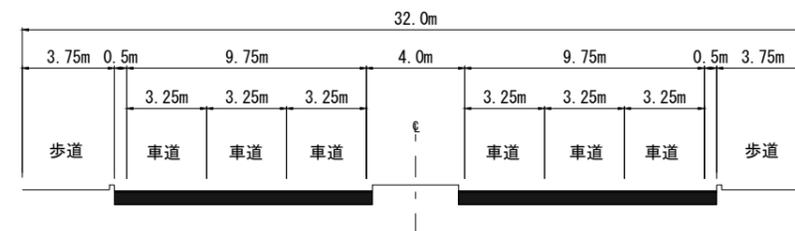


■標準横断面図

【整備前】



【整備後】



■現況写真

整備前の現道状況（起点部）



整備前の現道状況（交差点部）



【再評価】

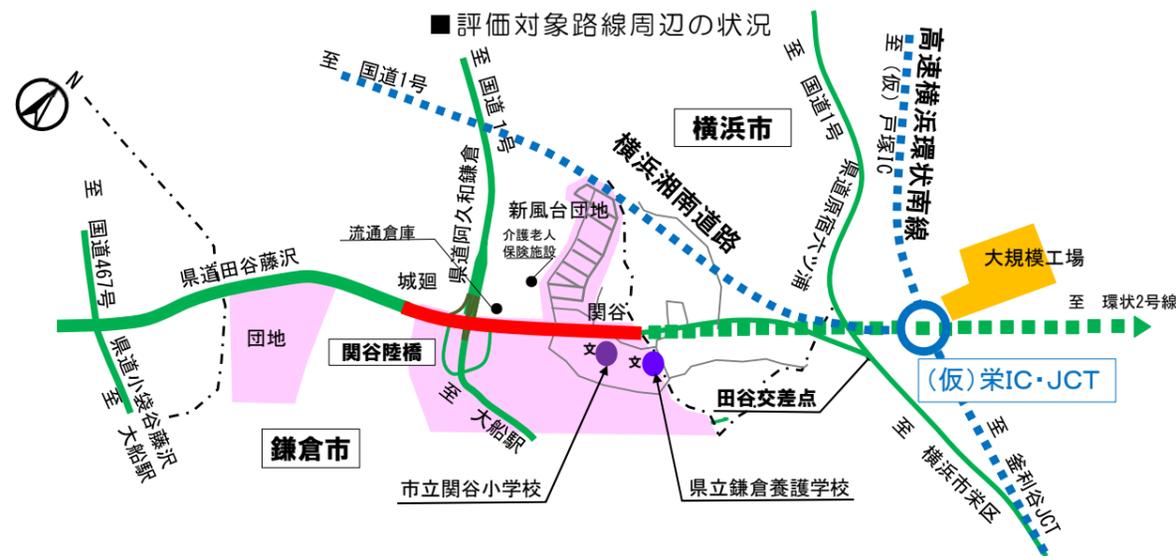
No. 1 都市計画道路 横浜藤沢線 街路整備事業

◆チェックリスト

(1) 事業の必要性等に関する視点

①事業を巡る社会経済情勢

- ア) 地域の状況
 - ・評価対象区間の周辺は、住宅地や工場が立地している。
- イ) 地元の意識
 - ・横浜湘南道路及び高速横浜環状南線（仮）栄IC・JCTへのアクセス強化により、沿道地域が活性化することを期待し、評価対象区間の早期整備を望んでいる。
- ウ) 事業地の状況
 - ・評価対象区間周辺の幹線道路では、田谷交差点などで交通混雑が発生している。
- エ) 周辺の環境
 - ・横浜市域では、国により横浜湘南道路及び高速横浜環状南線（仮）栄IC・JCTの整備が進められている。
 - ・沿道には、避難所に指定されている小学校や養護学校が立地している。



(仮)栄IC・JCT整備状況

(仮)栄IC・JCT完成予想図



②事業の投資効果等

■費用対効果 $B/C = 121 / 21 = 5.7$

総費用： 21 億円	・事業費	：	21 億円
	・維持管理費	：	0.30 億円
総便益： 121 億円	・走行時間短縮便益	：	96 億円
	・走行経費減少便益	：	25 億円
	・交通事故減少便益	：	0.35 億円

■経済的内部収益率（EIRR） 15.1%

■上記便益に算定されていない効果

- ア) 防災
 - ・「第1次緊急輸送道路」に指定されている国道1号の代替路が確保され、防災機能の強化が図られる。
 - ・災害時に避難所となる小学校や養護学校への安全で円滑な避難が期待できる。
 - ・広幅員の道路整備により、火災発生時の延焼を防止する防災空間を確保できる。
- イ) 安全・安心・利便性
 - ・両側に歩道が整備され、通学する児童、生徒をはじめとする歩行者等の安全が確保される。
 - ・第3次救急医療機関である（独）国立病院機構横浜医療センターへの利便性向上が図られる。
- ウ) 地域の活性化
 - ・湘南地域へのアクセス機能が向上し、一層の観光振興が期待される。

①供用済区間



②供用済区間



第3次救急医療機関へのアクセス



【再評価】

№. 1 都市計画道路 横浜藤沢線 街路整備事業

③関係する地方公共団体等の意見

- 地元自治会 : 道路整備の促進及び早期完成を要望する。
- 神奈川県商工会議所連合会 : 県内への新たな企業立地の促進や、沿道市町の活性化のため、圏央道及びアクセスする周辺道路の整備を要望する。

(2) 事業の進捗の見込みの視点

①事業の進捗状況

- 事業化年度：平成21年度
- 用地着手年度：平成21年度
- 工事着手年度：平成30年度
- 進捗率：67%（用地取得率：85%）
- 供用率：0%
- 残事業の内容等：用地取得、道路改良工

②これまでの課題に対する取り組み状況

- ・6車線化による地域分断が懸念されるため、地元との意見交換をしながら歩行者用信号の時間を長く確保できるよう警察との調整を行っている。

③今後のスケジュール

- ・残る用地取得を進めるとともに、横浜湘南道路及び高速横浜環状南線（仮）栄IC・JCTや横浜市区間の工程と調整を図りながら、平成32年度の完成を目指す。

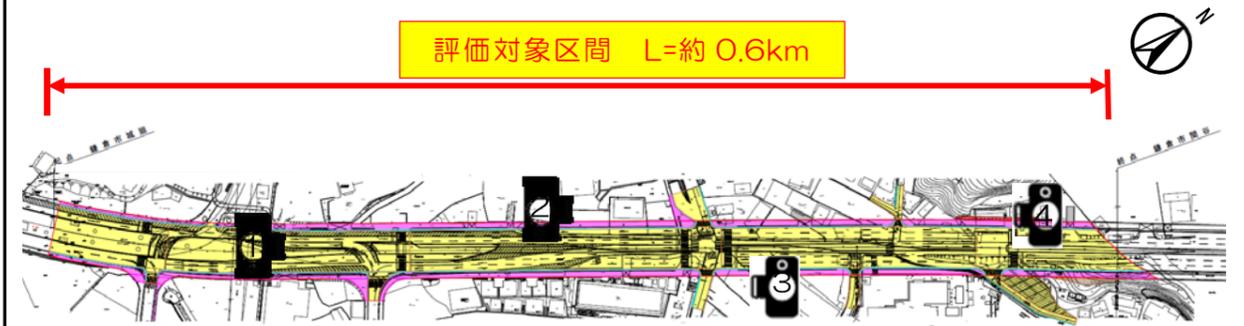
年度	H30 (2018)	H31 (2019)	H32 (2020)
用地取得			
工事			

(3) コスト縮減や代替案立案の可能性の視点

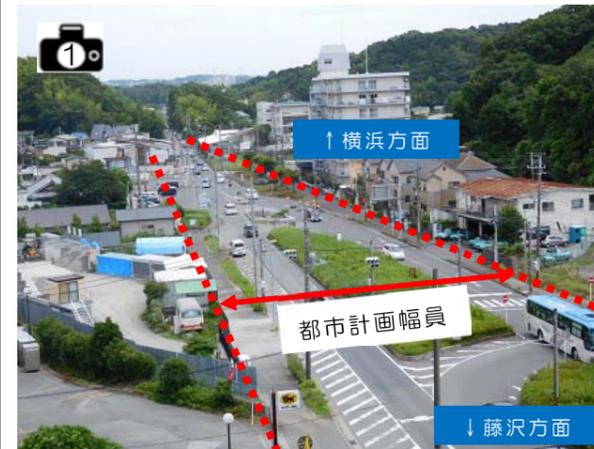
■代替案立案等の検討

- ・評価対象区間南側は既に供用しており、横浜湘南道路及び高速横浜環状南線（仮）栄IC・JCTへのアクセス機能を発現するものとして、代替案は難しく、現計画による整備が最善である。

■評価対象区間の状況



未整備箇所の現道状況



未整備箇所の現道状況



危険な現道状況



用地取得済みの区間



◆ 対応方針（案）

継続	本事業は、横浜市域と湘南地域を結ぶ広域的な幹線道路ネットワークを形成するとともに、圏央道の一部を構成する横浜湘南道路及び高速横浜環状南線（仮）栄IC・JCTへのアクセス強化が図られるなど、事業の必要性に変化はなく重要性は依然として高いことから、事業を継続する必要がある。
----	---